

チャーガ研究資料翻訳：人での臨床試験データ

皮膚ガンを始めとした様々なガンに移行しやすい乾癬の治療

1973年5月にロシアで発表

皮膚病、性病診療所（主任教授：E. A. ドスイチョーフ）、クイビシェフ医学研究所並びにプレスト皮膚病、性病診療所（主任医師：I. H. ブラッドナー）

背景

チャーガの研究は、1951年にソ連邦科学アカデミー植物研究所と第一レニングラード医大の共同で始まった。臨床研究後にチャーガエキスが連邦薬局方指定公認の薬として手術不可能なガンに対する強壯剤、症状に基づく治療薬としてだけでなく、胃腸や十二指腸潰瘍、慢性胃炎、胃腸のポリープ治療にも推奨された。

始めに

乾癬治療においてチャーガ製剤の治療法の有効性を研究した理由は、ドスイチョーフ教授が注意深く観察していた乾癬患者の中で、完全に乾癬が消滅した患者が、チャーガ製剤を14年間飲み続けていたからである。

事例研究

胃腸障害におけるチャーガの効果を考慮し、チャーガエキスを急性乾癬と慢性的な胃腸や肝臓病の患者にも用いる事に決めた。

内科医が患者の診断に加わった。

50名の患者（女性14名、男性36名）内訳は6歳～10歳：2名、10歳～20歳：5名、20歳～30歳：17名、30歳～40歳：18名、40歳～50歳：7名、50歳以上：1名。

この内3名は乾癬の進行に先立ち、既に胃腸管または肝臓の疾患（胃酸過多と低胃酸による胃炎、肝胆嚢炎、胃潰瘍または十二指腸潰瘍、大腸炎）があり、9名は既存の乾癬に加え胃腸管の疾病が現れた。4名は慢性的な鼻咽頭の疾病を伴っている。胃腸肝機能障害のほとんど全員が胸焼け、ゲップ、不安定な便、脂肪質の食べ物に対するアレルギー、右腹上部痛などの症状を訴えていた。これらの患者の乾癬の悪化がしばしば胃腸管の悪化と同時に起きている事に気づいていた。

鼻咽頭疾病、急性扁桃腺炎、耳の炎症、副鼻腔炎等を患っている患者は、これらの疾病が往々にして皮膚炎の発症原因になっている。

この治療期間中、一般的な臨床検査の他に、患者全員が胃分泌物、胆汁、変化しやすい生化学的な血液パラメーターの検査を受ける事が条件とされた。各々の患者は病歴ファイルと専用の検査カードを所持。患者の主要な検査はプレスト皮膚病診療所で行われた。

チャーガ治療が始まる前の患者の乾癬の病歴は、1年が5名、3年が7名、5年が8名、10年が13名、15年以上が10名であった。

患者の内3名は乾癬性紅班、1名は乾癬性関節炎、18名が大量のプラークの浸潤を伴う広範囲の乾癬、20名は小さなプラークの発疹が広範囲に広がっていた。8名は局所的な乾癬プラークがあった。43名が急性乾癬、7名は感染が安定した状態でチャーガ製剤ペーストで治療を開始。

チャーガエキスは、熱され、テーブルスプーン1を一杯のグラスに入れ沸騰したお湯で薄めた。テーブルスプーンのこの溶液を一日3回、食事の20～30分前に飲用。

チャーガエキスのペーストではなくチャーガの水溶液ベフンギンは、デザートスプーン1にたいしてお湯（室温）100の割合で調合した。

飲用方法は同じであった。どちらのチャーガも不愉快なおい、味はせず、患者が数か月続けて摂取しても十分に耐えられるものであった。

大多数（42名）の患者がチャーガだけを内服、8名はチャーガの内服と軟膏を併用。24名はチャーガを3～6ヶ月、18名は12ヶ月、8名は2年以上飲用した。治療上の効果は最初遅々としていたが、規則正しく飲用する事で3ヶ月で最大の効果が現れた。多くの場合、乾癬性発疹はまず胴から消え、次に頭皮、上肢、最後に腰や脚の下部から次々に消滅した。乾癬に侵された爪の正常化は治療2～3ヶ月後に現れた。

多くの患者が乾癬の治療のみならず、慢性的な胃腸機能障害、関節の痛み、ポリープの消滅、便秘等が改善され、全体的な健康状態が著しく良くなった。

ただし、乾癬が治癒し、正常な皮膚の状態になった患者が、チャーガを何らかの理由で数か月間飲用しなかったケースでは、再び皮膚に小さな薄片状のスポットが現れた。しかし再びチャーガを続けた結果、乾癬の兆候は再び消えた。

#### 結論

我々の観察によれば、チャーガによる乾癬治療は、乾癬が胃腸管、肝臓、胆汁分泌系等の多様な慢性の炎症を伴っている場合、これらの症状が乾癬発生までに先行、或いは乾癬の症状進展の過程で現れた場合に、特に効果がある。チャーガによる乾癬治療は9～12週間続けて使用する事によって最大の効果が記録された。引き続きチャーガを常用する事で、他の治療を受けずに外皮の乾癬性の発疹から完全に開放された。チャーガの長期摂取及び常用は、例外なく胃腸機能の改善、全般的な生活機能の向上、体調の回復が全員の患者に見られた。検査の結果も、血液、胃酸、胆汁、尿、便の改善が明らかであった。

おそらくチャーガによる乾癬治療は、他の薬剤や治療法の必要なしに、長期にわたる症状を緩和する可能性があると思われる。チャーガを患者に処方する場合、医師はチャーガの著しい効果が表れるのには、9～12週間かかるという事を前もって知らせる必要がある。患者には正しい食生活と十分な休養を取る事を勧めなくてはならない。チャーガ治療中の副作用または合併症は、一度も観察されなかった。チャーガ療法は、外来診察の医療現場において、将来大いに期待が持てると考えられる。乾癬に対するチャーガの治療力のメカニズムが、どのように働くのかさらなる研究が求められる。

臨床実験の結果は下記の通り：

乾癬患者に対するチャーガの有効性：

乾癬のタイプ	完治	改善	効果なし	悪化
広範囲にわたる乾癬 (大きなプラーク (複数))	14	2	2	-
広範囲にわたる乾癬 (局所的なプラーク (複数))	16	3	1	-
限られた乾癬損傷	5	2	1	-
紅斑皮膚の損傷	3	-	-	-
乾癬性関節炎	-	-	-	-

(注) 改善効果が現れなかった4名には、飲み忘れ、アルコールの飲用、生活習慣の悪習があったとみられる。

翻訳元データのURL

[http://www.chagatrade.ru/pdfdocs/psoriasis\\_chaga.pdf](http://www.chagatrade.ru/pdfdocs/psoriasis_chaga.pdf)